

## R30a 銀河系中心核周リングへの落下ガスのSiO輝線高分解能観測

佐藤 麻美子(東大)、坪井 昌人(東大)

銀河系中心領域は最も近距離にある巨大ブラックホールを内包した渦巻き銀河の中心であり、その構造は長年大きな興味の対象となっている。中心から 2-5pc には銀河系中心核周円盤 (CND) と呼ばれるリング上の構造がある。この構造が維持されるには外部から何らかの物質供給があると考えられ、これまでに行われた CS や NH<sub>3</sub> 輝線 (e.g. Herrnstein and Ho. 2002) の観測から、銀河系中心の 10pc 以内にある巨大分子雲から物質供給の流れ (ストリーマ) があると推測される (e.g. Okumura et al. 1989, 1991)。この仮説を確かめるため衝撃波トレーサでかつ十分な感度のある SiO J=2-1, v=0 輝線による高分解能観測を野辺山ミリ波干渉計を用いて行なった。その結果 CND の南西部に SiO 輝線のピークがあることを見つけた。輝線を検出できたことから、CND とストリーマとの間に衝撃波が存在することはほぼ確実であると考えられる。

本講演ではこの衝撃波構造の詳細を発表する。